

<グループワーク参考資料>

令和 6 年度の柏市立図書館協議会委員の意見

※今年度の協議会テーマに関連するご意見を抜粋。

資料3

ジャンル	発言
将来の柏市立図書館	○これまでの図書館は静かに読書をする場所だったが、市民の居場所や、アクティブやクリエイティブな空間にすることで今まで図書館に興味を持たなかった層を取り込んでいけると思う
	○新しい図書館が作られるなら「そこに図書館があるから」を目指すようにしてほしい。
	○今後の地域情報コーナーの充実を期待する。特に地域の資料の保存と活用。時代とともに何もしないと途絶えてしまうものと考えてるので、残していくための計画の策定や実行を行って欲しい。
	○図書館は公園や広場のように予定がなくてもふらっと立ち寄れる場所であり、サードプレイスや居場所の空間になりうると思う。
	○今後の図書館はコミュニティの拠点になりうる。
	○図書館はふるさとへの愛着心を育むというコミュニティの拠点になれば良いと思う。例えば、絵本の読み聞かせや町探検。図書館から外への繋がりをもっと増やせていければ良いと考える。柏市内にはふるさとを守ろうと活動する団体がいるが、あまり知られていない。既存の地域団体と子供たちが関わった展示などがあると、もっと市民の方々が興味を持ち、図書館が魅力的な場所になるのではないかと考える。
	○これからの柏市の図書館について、大人の居場所も必要であると考えている。柏高島屋ステーションモール新館にできた「B e A R I K A（ビーアリカ）」のような居場所が求められていると感じ、今後の空間づくりの参考になると感じた。
	○図書館本館の利用者増加を考える仕組みをもっと考えていかなければならない。できる、できないではなく、図書館をどのように変えていきたいかを議論していくことが必要。
	○図書館は社会教育機関であり人々が本を通じて学んでいく場所である。狭い考えの学びではなく、自らの暮らしや、人生を変えていく学びが柏市の図書館に根づいていると感じた。これを継続していくことが「まちづくり」において必要不可欠になる。
	○時間の経過で建物の老朽化が進んでいる中、昨今の公共施設は複合化が主流の「機能ベース」になっている。複合施設を作る時は機能ベースの議論になりがち。そうではなく、もっと「目的ベース」でこんな暮らしがしたい、こんな過ごし方がしたい、という議論を図書館が行って欲しい。
	○柏市の図書館は直営。行政がなぜ図書館を運営するのがこれから問われていくと思う。民間委託の図書館との違いは何かが非常に大事になってくる。
	○学校図書館63か所のうち、14か所がリニューアルしている。コンピュータ室と図書室を融合したところもある。学校図書館に対する考え方が大きく変化し、単に読書を楽しみ、心を癒す場所から、学びの中心に変わってきている。子供は環境を整えてあげれば読書に向かうと考える。
	○コロナ渦の際、世間は本ではなくインターネットやテレビの情報に惑わされてしまった。あの時に図書館が「知の集大成」を使って何かできたのではないかと。図書館の知を基に、まちを良くしていくということが大事と考える。

柏市のまちづくり	○駅周辺に一息できる場所が少ない。TeToTeの大人版が求められていると感じる。
	○市内に「ちょっとしたスペースで本が読める場所」が広まっていけばと思う。
	○柏駅前再開発の話の中に図書館も入るべき。また、総合的な視点で、図書館だけでなく市機能が集約された施設ができれば良いと考える。
	○子育て世代が多くいる柏の葉エリアに図書館が必要であるとの要望が多くあると聞いている。
その他	○建築業界はこれからリノベーションが主流になってくる。また規模の大きさは関係なく、本の広場のような小規模リノベーションも求められてくると考える。
	○大人の居場所も必要である。柏市内で大人が一息つく居場所が少ないと感じている。
	○これから少子高齢化が進んでいく。未来ある子供たちを大事にしていく一方で、高齢者がいきいきと暮らしていける場所という意味で「大人の居場所」がこれからさらに大事になってくると感じた。